

平成 24 年度 初芝橋本中学校・高等学校 学校評価

はじめに

近年の少子化や教育政策の転換などにより、私学を取り巻く状況が厳しさを増している現在、初芝橋本中学校高等学校（以下、本校という）は、生徒や保護者、地域・社会の要望に的確に応えた学校運営に努めてきました。

本校では 2 回の生徒による「授業評価アンケート」を実施し、授業改善に活かすとともに、さらに保護者の方々による「教育活動に関する保護者アンケート」と教職員による「自己評価アンケート」を実施し、これらの結果と分析および日頃の取り組みなどを検証し、平成 24 年度の学校評価をまとめましたので報告します。

【1】平成 24 年度の概要

- 中学校は新生入生 41 名を迎え、中学 2 年 47 名、中学 3 年 62 名と合わせ、計 150 名で平成 24 年度のスタートを切りました。
- 高等学校は新生入生 158 名を迎え、高校 2 年 176 名、高校 3 年 180 名と合わせ、計 514 名で平成 24 年度のスタートを切りました。
- 4 月は新生入生歓迎会を兼ねた「若葉祭」、6 月は球技大会、9 月は体育祭と、生徒会が中心となり企画・運営の取り組みを行いました。いずれも生徒が楽しみにしている行事で、短い準備期間にもかかわらず、全校生徒が協力し充実した内容でした。
- 「目指せ 一番！！」を合い言葉に、誰もが何かで一番になれるようにとの意識をもって取り組みました。部活動での顕著な活躍としては、なぎなた部、柔道部、バスケットボール部の全国大会出場が挙げられます。
- 夏休みには中学、高 2、高 3 が、12 月には高 1 がそれぞれ勉強合宿を行い、互いに切磋琢磨し勉強に励みました。
- 10 月には立命館コース中学 3 年が立命館アジア太平洋大学（APU）へ 3 泊 4 日の宿泊研修を実施しました。APU リーダー（留学生）との交流や、“Things we can do now”をテーマにしたプレゼンテーションを通じて、Global English の必要性を感じ、ともに支えあうことの大切さを体感できた研修でした。
- 12 月には高 2 が台湾修学旅行を実施しました。台湾永平高級中学との交流は、異文化を知る良い機会となりました。
- 「高野山参詣登山」「九度山世界遺産マラソン」「橋本マラソン」など、地域行事にも積極的に参加しました。また運動部員が毎朝、林間田園都市駅・学校周辺の清掃活動を行いました。

【2】平成 24 年度重点目標の達成状況について

（1）生徒の基本的生活習慣の確立

本校では、生徒が基本的生活習慣を確立することにより、将来の社会人として基礎的力量をしっかりと身につけるように日々の取り組みを行っています。教員自身も 5 分前行動の励行や、チャイムと同時に授業が始められるように時間厳守を徹底しています。実

際、通学路や校内では多くの生徒が気持ちよく挨拶しています。

また、学校生活上のルールやマナーについても、生徒への指導だけに留まらず、保護者へもしっかりと伝え、保護者の理解と協力を得ることに努めています。

保護者アンケートにおいても、設問「挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がされている」や設問「学校生活などの諸規程は、納得できるものになっている」は、「あてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な評価(以下、肯定的な評価という)の割合は、それぞれ9割以上、約8割と高い評価を得ています。

(2) 教育内容の厳選と基礎・基本の徹底、及び進路を見据えた応用力の育成

本校では、生徒の「授業評価アンケート」結果を活用した授業改善や教育内容の厳選、基礎・基本の徹底に向けたカリキュラム等の改善に努める一方、進学プロジェクトをはじめ進路を見据えた応用力の育成に力を入れています。

保護者アンケートにおいても、設問「わが子は、積極的に学習に取り組んでいる。」の肯定的な評価は約6割に留まっているものの、設問「教職員は、授業を改善し、わかる授業、力のつく授業の工夫をしている。」の肯定的な評価は7割以上となっています。

前述の学校の方針に基づく、教職員の努力が、設問「わが子は、授業内容に満足している。」や設問「教育課程は、進路希望の実現に対応するものになっている。」の7割弱の肯定的な評価につながっていると考えられます。

今後とも、授業内容を精選し、生徒の学習意欲を向上させるよう努力し、積極的な学習習慣の定着を図るとともに、それぞれの生徒の学力を見極め、授業内容を工夫し、より多くの生徒に満足してもらえるよう、一層の努力をしていきます。

(3) 適切な進路指導と誠意ある対応

本校では前述の通り、生徒の進路を見据えた応用力の育成に力を入れています。その前提として自覚的な進路開拓を促すキャリア教育や各自への適切な進路指導が重要と考えています。

そのため、実社会から学び、将来の社会人としての夢や希望の獲得、それに相応しい進路・進学の選択を促すキャリア教育の充実を図るとともに、進路に関してタイムリーな情報の提供、生徒の個々の進路希望に応じたきめ細やかな指導を心掛けます。

保護者アンケートにおいても、設問「将来を考える、進路意識を高める指導がされている。」や設問「進路に関する情報を的確に伝え、きめ細やかな指導がされている。」は、ともに肯定的な評価が約7割となっており、本校の進路等に関する教育方針が、概ね理解を得ていると考えられます。

今後とも、生徒・保護者のニーズに応えられるように、キャリア教育や進路指導の充実に努めていきたいと考えます。

(4) 学校(学園)づくり、及び生徒募集の推進

本校は、時代とともに変化する生徒・保護者のニーズを捉え、日々の学校(学園)づくりに活かすように努力してきました。また、このような努力が本校の特色をより明確にし、本校を熱望する生徒の入学につながるものと確信しています。

保護者アンケートにおいては、設問「わが子を入学させてよかったと思う。」が約 9 割、設問「生徒同士がお互いを認め合い、豊かな心の育成ができています。」が約 8 割の肯定的な評価を得ており、前述のような日々の努力の中で、生徒が伸び伸びと育っていることを示していると考えます。

しかし、設問「わが子は、学校のことを誇りにしている。」の肯定的な評価は 6 割強に留まっています。これは、本校を熱望する生徒を迎える募集活動や学校生活における各自の目標や希望の確立に向けた教育活動がまだまだ不足していることの表れであると同時に、伸び伸びと成長する生徒の姿や進路、部活動等の実績などが社会的に十分に伝わっていないものと考えます。

今後とも、学校生活全般の活性化をいっそう図っていきたいと考えます。

【3】学校生活と改善状況について

（1）部活動や学校行事などに関すること

本校は、学校教育の重要な一環として部活動を奨励しています。テニス部や吹奏楽部に代表されるように、地域との交流活動や外部への発信によって、さまざまな地域連携も行っています。また様々な学校行事(若葉祭、体育祭、中学生のオーストラリア修学旅行、高校生の台湾への修学旅行など)も、生徒会を中心とした生徒主体の運営となるように努めています。

保護者アンケートにおいても、設問「部活動や生徒活動が活発に行われている。」は、約 8 割、設問「学校行事（文化祭・修学旅行など）は楽しく充実している。」は約 9 割の高い肯定的な評価を得ています。

部活動や学校行事の生徒主体の活性化は、学校生活全体を豊かなものとすると同時に、将来の社会生活を営む上で大きな力となるものです。この点を大切に、今後とも部活動や学校行事の充実に努めていきます。

（2）生徒指導・サポートに関すること

日ごろの学校生活において、教職員は「上から」ではなく生徒の良き理解者として適切な指導・サポートに努めなければなりません。時代や社会の変化とともに生徒の様変わりも大きなものがある中、教職員と生徒の適切な関係を築く不断の努力が強く求められていると考えます。

保護者アンケートにおいては、設問「教職員は生徒のことをよく考えて指導している。」は、8 割 5 分という高い肯定的な評価を得ていますが、設問「わが子は、悩みや困ったことを教職員に気軽に相談できている。」(肯定的な評価 6 割弱)にはつながっていません。

この点は、生徒の教職員への相談事が勉学や進路、部活動などに限定されがちなことによるとも考えられますが、生徒が気軽に相談出る雰囲気醸成も含めて努力が必要であると同時に、スクールカウンセラー体制の充実など多様な相談体制の整備が課題と考えます。

【４】平成２５年度の重点課題

- ① 基本的な生活習慣の確立の指導
- ② 教育内容の厳選と基礎・基本の徹底、及び進路を見据えた応用力の育成
- ③ 適切な進路指導と誠意ある対応
- ④ 校内教職員研修の充実
- ⑤ 学校（学園）づくり、及び生徒募集の推進

おわりに.

生徒や保護者の願いや要望を正確に把握し、その期待に応えるため、今回実施した「保護者アンケート」の結果を真摯に受け止め、今後の学校づくりに活かしていきます。

本校では、「生徒一人ひとりの個性を伸ばし、夢（進路希望）が実現できる学校」をめざして、教職員は一層努力し、教育の充実を図ると同時に、地域に根ざし開かれた、特色ある、魅力ある学校づくりに努めてまいります。

初芝橋本中学校・高等学校
平成24年度 学校関係者評価報告書

初芝橋本中学校・高等学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会開催日：平成25年4月9日（火）

1. 平成24年度 自己評価結果について

平成24年度、本校は大阪初芝学園の将来構想「2017基本構想中期計画第1期計画」に基づき「初芝橋本中学校高等学校あり方構想」の構築を重点課題として、教職員は『授業力のより一層の向上』と昨年同様『適切な進路指導と誠意ある対応』、『学校（学園）づくり、及び生徒募集の推進』に、積極的に取り組んだ。

その結果、進学実績においても国公立大学11名関関同立38名の合格者を出し、高等学校3年生全体で現役進学率が80.4%となった。教員アンケートでも、「教員間教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて授業を行っている。」の設問に対して教員の93.3%が「あてはまる・ややあてはまる」と回答しており、教員全体が進学実績の向上を目指し、授業改善に努める意識を高めたことがうかがえる。

さらに、昨年度から「生徒の基本的生活習慣確立」に重点を置いて授業改善に取り組み、皆勤や精勤で表彰を受ける生徒が増えたことに見られるように、その効果があったと思われる。

一方で、保護者アンケートの「わが子は、積極的に学習に取り組んでいる。」について、本年度は中学校約6割、高等学校が6割以上であり、『教育内容の厳選と基礎・基本の徹底、及び進路を見据えた応用力の育成』について、「教員の自己満足に終わらない」ことを教員一人ひとりが常に念頭に置き、今後も授業の予習から復習まで、より丁寧に指導する姿勢の必要性が求められる。

教職員の認識と保護者の思いにひらきが生まれないう、教職員と保護者の思いが一致するよう、双方の交流を深め、共により良い学校づくりにさらに邁進することを期待したい。

2. 平成24年度 自己評価結果と保護者アンケートについて

4回目となる学校評価に、保護者もよく現状を把握して回答していただいております、保護者の思いをよく反映したものとなっている。

保護者アンケートでは、設問「挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がされている」は、9割以上の肯定的な評価を得ている。このことから『生徒の基本的生活習慣の確立』について、学校の指導、実践が生徒に浸透し、家庭や地域においても評価されつつあることがうかがわれる。

生徒の学校生活について、設問「部活動は活発に行われている」の肯定的評価は、教員アンケートで9割以上、保護者アンケートでも8割を得ている。このことは、生徒の要望に学校が応え、中学生は勿論、高校生も含め、部活動に参加できる環境整備を行った結果

と評価できる。また、設問「学校行事は楽しく充実している」について、保護者からの肯定的な評価は約9割と高い評価を得ている。

部活動の活発化や行事の充実に見られるように、生徒の学校生活については、生徒・保護者の要望を大切に学校が取り組んでいる成果であると考えられる。

学校が生徒に「文武両道」を求め、充実した中学校、高等学校での学校生活実現に努めようとしていることに保護者の理解が得られていると見られる。

一方で保護者アンケートの設問「教職員は授業を改善し、わかる授業、力のつく授業の工夫をしている。」は、7割以上となっていものの部活動や学校行事より低位にあり、より一層の授業の充実が求められていることを踏まえ、現状に満足せず、学校づくりを推進したい。

常に「行って良かった初橋、行かせて良かった初橋、勤めて良かった初橋」であるよう、より良き初橋創造に向け課題を挙げ意見を述べる。

生徒・保護者・地域に愛され、地域の拠点、誇りとなる学校づくりに

① 生徒指導に関して

年々、学校周辺・林間田園都市駅での清掃活動に地域からの評価を高めている。また、生徒全体が礼儀正しく挨拶を交わしてくれる。生活指導に学校が力を入れていることの成果であると考えられる。

一方で、保護者アンケートの設問「わが子は、学校のことを誇りにしている」は、6割強の肯定的な評価にとどまっている。

また、設問「わが子は、悩みや困ったことを教職員に気軽に相談できている。」について、やや向上しているものの、6割弱にとどまっている。今後一層、教職員と生徒との距離を縮め、生徒に寄り添う指導の実践により信頼関係を高めていくことが肝要であると考ええる。

② 進路実績の向上について

本年度、国公立に11名、関関同立に38名の合格者を出し、進学実績が向上したことは、平素の授業と進学プロジェクトを中心とした学力向上に向けた取り組みが定着してきたことと評価できる。

設問「進路に関する情報を的確に伝え、きめ細やかな指導がされている。」は、肯定的な評価が約7割となっており、生徒や保護者との信頼関係の基礎が固まりつつあると思われる。また、設問「教育課程は、進路希望の実現に対応するものとなっている。」の肯定的な評価も約7割となっており、より進路実現に直結した教育内容の提供が望まれていると考えられる。進学実績はその学校の社会的評価のバロメーターであることは言うまでもなく、生徒の学校に対する誇りの基礎ともなるので一層の指導体制の充実をお願いしたい。

③ 教員の資質に関することについて

設問「教職員は、生徒のことをよく考えて指導している。」は、肯定的な評価は約8割5分と高い評価を得ているが、設問「わが子は、授業内容に満足している。」の肯定的な評

価は7割弱となっている。さらに生徒の授業への満足度を高め、生徒や保護者との関わりを大切にし、教師との強い信頼関係を基礎とした学校であることを期待する。

④ 施設設備について

寮生の設備の満足度は、5割以下の評価にとどまっており、学校と保護者が、生徒のために寮のみならず学校全体の施設・設備の整備に取り組み、地域の文化・教育の拠点となることを願う。

⑤ 全体の傾向について

設問「わが子を入学させて良かったと思う。」の肯定的な評価は、約9割と高い評価を得ている。保護者からの満足度の高さが読み取れるが、生徒や保護者、地域はもちろん、卒業生やその保護者に常に高い満足を提供し、「誇りある伝統校」となることを願う。

平成24年度学校関係者評価委員

平成24年度 保護者会会長

平成24年度 高等学校（3年）保護者代表

平成24年度 中学校（3年）保護者代表

平成24年度 初芝橋本中学校高等学校教育後援会会長

橋本市立 紀見北中学校 元校長

初芝橋本中学校高等学校 前校長